

2018（平成30）年6月20日

「現代朝鮮語の「連用形語尾+焦点助詞」研究の問題点」

発表者：黒島規史（東京外国語大学非常勤講師）

本発表では、現代朝鮮語の連用形語尾（日本語の接続助詞「～ながら」などに相当）と焦点助詞（日本語のとりたて助詞「～は」などに相当）の結合した例を研究する場合の問題点について、連用形語尾と焦点助詞の結合可否、対象限定、「連用形語尾+焦点助詞」の意味、形態の観点から論じた。今回は特に日本語のテ形に相当する連用形語尾 $-(a/e)se$ と主題、対照を表す焦点助詞 $=nun$ が結合した例を扱った。コーパスから収集した用例を検討した結果、1) 連用節の従属度が高いほど焦点助詞が結合しやすいこと、2) $-(a/e)se + =nun$ は対照、先行性の明示、条件の意味を表すこと、3) $-(a/e)se + =nun$ が対照の意味を表す場合 $=nun$ は切り離せるが、先行性の明示と条件の場合は $=nun$ が切り離せない例があることなどを示した。3) に関しては $-(a/e)se + =nun$ を一つの形式と見るべきかどうかという問題について検討を加えた。